

平成23年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	かわごえ国際交流フェスタ2011
団体名	かわごえ国際ボランティアの会
市担当課名	文化スポーツ部 文化振興課
事業の目的	国際交流と異文化理解ならびに国際ボランティア活動に対する啓発を行う。
事業の実施内容	<p>○『かわごえ国際交流フェスタ2011』の開催 開催日時：平成23年11月13日（日）午前10時～午後4時 開催場所：蓮馨寺 参加人数 約2000人</p> <p>会場内のテント内で、各団体関連の各国の文化紹介（民俗料理、チラシ、パネル）、国際ボランティア団体および大学生団体による活動展示と紹介。 会場内にて民俗芸能の紹介と実演（文楽音楽と踊り等）。</p>
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 実施全般における運営、参加団体との連絡調整
	川越市の役割 機材（テント、机、椅子）の貸し出し。市広報への掲載。
事業の成果	<p>毎年会場を変えて実施してきた事業ですが、今回の会場（蓮馨寺）は立地条件も良く、予想以上の来場者があり、多くの市民に異文化に触れてもらうことができました。</p> <p>テント、パネル等の機材も揃い、訪れた市民の皆様にご各ブースでの交流や民族音楽などといった異文化交流パフォーマンスを十分に楽しんでもらうことができたものと認識しています。</p> <p>結果として、この事業を実施したことにより、市民の異文化理解、国際ボランティア活動への関心を高めることができたと考えています。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	機材（テント、机、椅子等）の確保をお願いしたい。1部署では必要な数を確保できなくて、不足分を調達するのに市のほうでも苦労されている。今後、機材面での調達がスムーズに行くことを願う。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	継続して事業を実施したいと考えていますが、規模を縮小せざるを得ないと思います。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成23年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	蔵と現代美術展－響きあう空間－展
団体名	「蔵と現代美術展」実行委員会
市担当課名	文化スポーツ部 文化振興課
事業の目的	川越の蔵空間を利用しての現代美術展の発表を通して、川越市街地の活性化と蔵空間の見直しを図る。
事業の実施内容	<p>○蔵と現代美術－響きあう空間－展 展示期間：平成23年11月3日（木）から11月23日（水）まで 展示場所：6箇所≪蔵づくり資料館、陶舗やまわ、カフェ・エレバート、蕎麦「百丈」、笛木醤油川越店、林家川魚店（及び風凜）≫ ◎出品作家：出店久夫 五島三子男 吉田富久一 石田智子 長谷川千賀子 柳井嗣雄 矢萩典行 田村優幸の8人。</p> <p>○「蔵と現代美術」シンポジウム 実施日時：平成23年11月6日（日） 実施場所：茶陶苑 参加者数 41人</p>
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 ・川越市街地活性化における蔵空間の見直しと活用
	川越市の役割 ・補助金の助成 ・広報等によるPR
事業の成果	<p>1、各会場の重複を含むが、芳名帳に記入された人数だけでも987人に達する。仮に、10人に1人が記帳したものとしても、約1万人ほどの集客が推定される。 なお、芳名帳における来訪者の約7割が市外からであり、単純に数字から見ても川越観光にも大いに寄与したと考えることができる。</p> <p>2、川越の蔵づくりの建造物を使い、現代美術作品を展示したことで、個々の美術家のユニークな作品表現により蔵の記憶と今日的意義を浮かび上がらせたのではないかと考えている。今後の川越観光に大きな示唆を与えた。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>特に今回、博物館・美術館のご協力には深く感謝するが、蔵空間の確保が充分であったかどうかと言う点では、まだこれからと言える。これから更に蔵空間を開発あるいは確保していくには具体的には観光課や中心市街地活性化推進室への働きかけも重要になってくるのかと思える。</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	<p>今回の協働事業で、4件ほど協賛金も得られたことを踏まえ、企業等の協力をあおぎつつ実施していきたい。</p>

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成23年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	地域の仲間づくり・たすけあい活動
団体名	かすみ野たすけあいの会
市担当課名	福祉部 高齢者いきがい課
事業の目的	超高齢社会の中で誰もが地域でいつまでも暮らして行けるように、「地域の仲間づくり、たすけあい活動」を行い、地域福祉に貢献する。
事業の実施内容	<p>1 地域の仲間づくり友達活動の実施： ①「ふれあいサロン」の開催。毎月1回50名規模で実施。②「折紙クラブ」の開催。毎月1回20名程度出席。老人ホーム真寿園の依頼で入所者の折紙ボランティアも毎月2回実施中。③「いもっこ体操クラブ」の開催。毎月2か所でそれぞれ2回計4回実施。参加者各回10名程度。</p> <p>2 地域の助け合い活動の実施： 会員登録制（入会金年会費無料）で家事、通院付添などを有償（30分単位で300円）支援。利用会員登録者数71名、協力会員数41名。月平均20名程度40件 80時間程度の実績。</p> <p>3 研修・広報活動 ①市民講演会開催 かすみ野の町民対象に「高齢者を見守り・支え合う街づくりを進める集い」。講師 地域包括支援センターかすみ猪鼻紗都子センター長。8月28日。かすみ野自治会館ホールで出席者30名。②広報紙「かすみ野たすけあいの会」発刊（A3版）4月に第2号を、9月に第3号を町内全戸配布1050枚。③会員研修「夜間支援活動における注意点」3月23日、講師猪鼻紗都子（包括かすみセンター長）21名出席。</p>
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割 地域包括支援センターなどの福祉機関等の連携のもとで、提案事業の実施主体となること。</p> <p>川越市の役割 ①財政的補助・助成 ②市の地域包括支援センター等の指導助言を得ること。</p>
事業の成果	<p>①仲間づくり活動（ふれあいサロンや折紙クラブなど）は、口コミにより新規加入者が続き、盛況であった。②地域包括支援センターなど高齢者支援機関との関係重視（毎回サロンではケアマネスピーチの実施）、高齢弱者の社会参加（サロンなどは送迎付き、車いすを積んでのバスハイクの実施、花見など）や「参加者もみんなが主役」の思想（参加者もボランティア＝折紙クラブで実践中）で継続することを大切にしている。参加者の主体性や期待を感じる場面が出てきている。③たすけあい活動は、この信頼関係をベースに実施。利用会員数、支援実績共に漸増。支援内容は多岐にわたり、またケアマネからも依頼があるなど、公的支援の及ばない側面をカバーしている。この活動の延長線で24時間支援（0-24オニヨン支援）を2月から開始した。これはいわゆる「見守り活動」に連動し、安心して暮らせる地域の関係づくりを目指す。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>事務局体制の強化と協力会員の若年層の参加が課題です。このため、定年退職世代への参加の働きかけを強化することや、事業としての若年世代の課題（保育支援や世代間交流の集いなど）を行うことを検討中。</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	<p>この事業は、もともと公的助成金が無くとも自己財源でそれなりの規模を確保し実施して行く方針のものである。有償支援の謝金の25%を事務局運営費に充て自己財源の核をなしつつある。寄付金収入も漸増している。</p>

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成23年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	南古谷ウインド・オーケストラ演奏会
団体名	南古谷ウインド・オーケストラ
市担当課名	市民スポーツ部 文化振興課
事業の目的	南古谷地区の中学生を演奏者とした「南古谷ウインド・オーケストラ演奏会」を実施する。演奏会までの練習の中において、大学生等による楽器の指導等を通じて、大人と子どもが協力し合い、地域における新しい音楽文化の育みと振興、心豊かな人間形成を築いていくことを目的とする。
事業の実施内容	○平成23年1月から月に2～5回の練習を開始。 ※補助採択後の練習日【9日（土）、10日（土）、15日（金）】 ○南古谷ウインド・オーケストラ演奏会 実施日時：平成23年7月16日（土）午後2時から4時30分まで 実施場所：東邦音楽大学川越キャンパス（グランツザール）※入場無料 入場者数：637人（うち、アンケート回答者113人）
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 ・地域内における人的・知的資源を活用した音楽文化の育成と振興。 ・演奏会を通じて、地域の子も同士や幅広い年齢層の大人との交流を図る。 ・地域の子もから大人までの幅広い層に音楽の楽しさを周知する。
	川越市の役割 ・広報協力 ・事業周知等に関するアドバイス ・地域コミュニティに関するアドバイス
事業の成果	東邦音楽大学（川越キャンパス）グランツザールで、南古谷地区の中学生等による単独の演奏会を実施したことで、良質な音響会場で幅広い年齢層の方に音楽の楽しさや懐の深さが伝わり、音楽文化の向上に寄与できたのではないかと考えています。特に聴衆は市内各地から、特に60歳以上の方が多く来られたことで多人数の吹奏楽の楽しさを感じられたように思いました。 また、演奏会に向けて、何か月前から月に2回～5回程度の練習会を実施しております。この練習会を通じて楽器を教える大学生と教わる中学生との交流等も行われており、中学生にとっては楽器の演奏技術の向上だけでなく異なる立場の人と触れ合え、豊かな人間形成につながったのではないかと思います。 この演奏会の実施にあたりまして、地域住民の協力はもとより、中学生演奏者の保護者にも携わってもらい、この事業を通じて地域コミュニティ活動の更なる活性化にも寄与したものと考えています。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	東邦音楽大学と南古谷地区が連携し、互いに無償の行為とし、地域の中学生主体の楽団として発足したもので、現在、会費等は一切なく運営している。招待演奏などは、楽器や楽団員の送迎は地域のボランティアで行っている。しかしながら単独の演奏会は自己資金の確保が難しく、保護者や地域との話し合いが必要である。楽団の充実の面から単独の演奏会（定期演奏会）は是非とも必要であり、また、今後は全市内の中学生にも参加の道筋を作ることが必要と考えている。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	協働事業の補助金が終了しても、継続していきたいと考えます。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成23年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	体験！ 川越の職人の技
団体名	特定非営利活動法人 川越蔵の会
市担当課名	文化スポーツ部 文化振興課
事業の目的	普段あまり市民と接点のない職人さんたちの紹介や技の体験を通して、川越市の文化に対する認識を深めてもらい、「住むことに誇りを持ち、住んでよかったと思えるまち川越」の実現への契機とすることを目的とします。
事業の実施内容	<p>【第1回目】</p> <p>○実施日時：9月10日（土）午前10時～午後3時</p> <p>○実施場所①：鍛冶町広場、仲町観光案内所、○参加者約100名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大工のコーナー：かんな削り体験、かんなの削り華を使ったフラワーアート体験 ・木挽きのコーナー：大鋸での丸太挽き体験、大鋸の歴史展示 ・ビデオ上映「大工道具-その技と心」（観光案内所ギャラリー） ・川越の職人写真展（観光案内所ギャラリー） <p>○実施場所②：総合運動公園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鋸鍛冶のコーナー 中世の木の葉鋸の体験切り、鋸鍛冶紹介パンフレット配布 <p>【第2回目】</p> <p>○実施日時：10月23日（日）午前10時～午後4時</p> <p>○実施場所：旧織物市場中庭、○参加者約500名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庭師のコーナー：坪庭づくり体験、砂紋描き体験、竹を使った花器づくり体験 竹トンボ、竹駒などの遊び道具づくり体験 ・鋸鍛冶のコーナー：ペーパーナイフづくり体験、丸太挽きでコースターづくり体験 かんなの削り華を使ったフラワーアート体験
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割</p> <p>事業に参加する職人との事前調整、アースデイ実行委員会との調整、事前の準備、会場設営、当日のイベント運営管理</p> <p>川越市の役割</p> <p>当日のイベント運営管理、広報、備品の貸与</p>
事業の成果	<p>事業当日の参加者は、9月10日：記帳45名、見学のみも含めて約100名 10月23日：記帳107名、見学のみも含めて約500名（10月23日はアースデイに合わせての開催であったため、多くの来場者があった。）</p> <p>当初の目的と照らし合わせて事業の成果を考えると、多くの市民の皆さんが職人の技に直接触れる機会を持つことができたと考えられる。特に2回目のアースデイとの併催は、アースデイでクイズラリーや地域通貨を企画したこともあり、多くの方が来場して直接参加者以外も職人の技を見ることができ、大きな成果が得られたと考えます。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>「体験！川越の職人の技」事業は3カ年継続して実施された。以前から川越市では初雁賞という賞により伝統的な技術を持つ職人を顕彰するなど、伝統文化に対する理解があり、本事業を協働して行っていく下地は醸成されていた。今後も継続していくためには、市の担当者もより深く職人たちとの関わりを持ち、お互いに信頼できる関係を築いていくことが求められる。</p> <p>今年度で3カ年となり、同一事業に対して3回までという条件があるため、来年度以降は補助を受けることができない。本事業に限らず、このような啓発していくことを目的とした事業は継続していくことが重要であり、3回までという制限を設けるのは適切ではないと思われるため、この点についての再考をお願いしたい。</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	<p>会員の会費で運営されるNPOとして事業に出費できる金額は限られているため、補助金が終了した場合、同様の事業を今後も行うためには事業規模の縮小もしくは有料での開催となる。</p>

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成23年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	庶民の伝統文化落語の振興事業
団体名	蓮馨寺落語会世話人会
市担当課名	文化振興課
事業の目的	「伝統的な話芸」として完成した芸能、落語について、川越出身の2名の落語家2名にゲストを加えた寄席を定期的に地域寄席として、歴史と伝統のまち川越で開催することにより、落語の発展に寄与しようとするとともに、地域の活性化、文化的な振興を図ろうとするものです。
事業の実施内容	川越出身の2名の落語家をレギュラーに、ゲスト1名での落語会の実施 実施場所：蓮馨寺講堂（午後6時30分開演、午後8時30分閉会） 1回目：平成23年7月29日（金） 演者：古今亭志ん八、春風亭正太郎、三遊亭窓里 参加者：85人 2回目：平成23年10月28日（金） 演者：古今亭志ん八、柳亭市江 三遊亭窓里 参加者：78人 3回目 平成24年1月13日（金） 演者：古今亭志ん八、古今亭朝太、三遊亭窓里 参加者：72人
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 落語発展に向けた地域寄席の計画、地元NPO法人との事業実施に向けた連絡調整、事業周知等 川越市の役割 広報紙への掲載、協働に関する情報提供
事業の成果	協働事業として今年度は3回の地域寄席を実施し、いずれも幅広い年齢層の参加者がありました。落語の地域寄席を通じて地域に賑わいをもたらすとともに、伝統文化に親しんでいただくことができたと考えております。 特に、1月の第22回は川越出身のレギュラー2人に、今年秋に8人抜きで真打に昇進する古今亭朝太さんをお招きして、蒟蒻問答という大ネタを演じていただきました。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	当会が蓮馨寺落語会を実施して今年で5年目となります。 庶民の伝統話芸である落語を継続的な地域寄席として川越に根付かせることが大事であると考えており、そのためには市との協働だけではなく地元の団体との協力関係が必要です。今後も地元の団体とより良い協力関係を築いていきたいと思っております。
補助金が終了した場合の当該事業の見直し	蓮馨寺落語会のような地域寄席の世話人の一番の悩みが落語家への出演料と場所です。落語家の方に出演してもらうには、ある程度の出演料が発生します。その一方で、多くの方に見ていただくためには入場料は高く設定できません。さらに、開催する場所の一定期間の確保にも苦労します。現在は、蓮馨寺のご厚意で確保はされていますが、出演料はどのような形でも継続的に発生します。 補助金が終了した場合でも、入場料の引き上げや開催回数の削減若しくは休会などにならないよう“身近で伝統芸能が見られる数少ない場所”を継続していきたいと考えています。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成23年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	子ども大学かわごえ学園祭 “こどもがつくるまち第3回「ミニかわごえ2011」”
団体名	NPO法人子ども大学かわごえ
市担当課名	教育総務部 地域教育支援課
事業の目的	子ども大学かわごえ教育方針の一つ「生き方学」の体験版として、子どもたちが主人公として川越市のミニチュア版「ミニかわごえ」のまちづくりをし、そのなかで職業活動をするにより市民としての体験学習をする催しを実施する。
事業の実施内容	<p>○ミニかわごえの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日時：平成24年3月10日（土）、11日（日）午前10時～4時 ・実施場所：市内蓮馨寺の境内 ・実施内容：子どもたちが職業体験をする「こどものまち」をつくり、その中で、市民登録、職業紹介所、銀行、税務署等の店舗の他様々な作業所や工房、食べもの屋等の店舗を配置し、子どもたちが働いて生産活動を行い、おカネを稼ぎ、それを使って消費活動をする場をつくる。そしてそのようなまちづくりを子どもと大人が力を合わせて行う。東洋大学理工学部、川越女子高校、川越工業高校、城西川越中学校、高階中学校、寺尾中学校、川越青年会議所等の協力のもとに実施した。
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割 「ミニかわごえ2011」実行委員会の結成、準備と事業運営</p> <p>川越市の役割 ①財政支援 ②広報活動における支援 ③資材提供等の支援</p>
事業の成果	<p>計画では、「ミニかわごえ」の子ども訪問者を2日間で1000人と設定したが、当日の入場者は1286人となり、盛大な催しとなった。実施後に実行委員会スタッフが行ったアンケート調査では、子どもたちの約64%が「非常に楽しかった」、35%が「楽しかった」と回答しており、概ね良好な結果であった。</p> <p>また、高階中学の「よさこい鳴子おどり」、城西川越中学の和太鼓「櫂」のイベント、寺尾中学の絵画教室、川越女子高校生の英語教室、川越工業高校の生徒のものづくり教室などにおける小学生と中学・高校生の上に和やかな世代間交流がみられた。</p> <p>事業の成果としては、当初目的である社会体験等にととまらず、“子ども大学かわごえの学園祭”という枠を超えて、子どもたちと、川越市内の学校、会社、商店、市民団体、ボランティア団体の大人とが、積極的に協力し合う地域全体を巻き込む協働プロジェクトとなったと考えている。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	実行委員会スタッフ（とくに大人）の量的補強
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	子ども大学かわごえの学園祭として今後も継続して実施するには、マンパワーの負担が大きく、子ども大学かわごえ本来の教育に大きなしわ寄せが来ている。このため補助金が終わった段階で、市民団体へ移管して「川越市のこどもまつり」として実施してほしい。我々の経験では、補助金がなくても資金的には入場料や広告料でまかなえらるると思える。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成23年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	川越織物市場で撮影された映画上映とトークショー
団体名	川越織物市場の会
市担当課名	産業観光部 中心市街地活性化推進室
事業の目的	今よりもはるかに古い建物が残る昭和38年の川越の風景が映る映画を見ながら、川越のまちづくりについて思いをはせるとともに、当時の撮影に協力した方々から話を聞き、川越の文化再興について考える機会としたい。
事業の実施内容	<p>【映画上映会及びトークショーの実施】 日時：平成23年10月1日（土） 場所：川越スカラ座（川越市元町1丁目1番地1） ○第1回上映：午後1時～ ○第2回上映：午後4時～ ○トークショー：午後6時～</p> <p>1. 映画上映会 昭和38年に川越織物市場での住居の撮影をはじめ、川越でのロケによって撮影された映画「東映版無法松の一生」の上映会を実施【参加者：第1回147名、第2回141名】</p> <p>2. トークショー（当時撮影に協力した方々と） 松尾鉄城（当時：中学卒業直後、現在：川越市文化財保護審議会委員）他【参加者：80名】</p>
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割 事業全体の運営</p> <p>川越市の役割 情報や資料の提供、広報に関する協力</p>
事業の成果	<p>予想を超える288名もの参加者を得た。参加者層は60代以上が多く、映画撮影に関与した方々も30名以上参加した。この映画はDVD化されておらず、観る機会もほとんど無いため、三國連太郎さんのファンや無法松ファンの人も埼玉県内全域から広く参加した。</p> <p>トークショーについては、80名を超える多くの方に参加していただいた。互いに貴重な生の声を聴くことができ、昭和38年の川越の風景が参加者間で共有され、単に思い出を語るだけではなく、今後のまちづくりにどうつなげていくかという積極的な発言がみられました。</p> <p>この映画が撮影された旧川越織物市場をはじめ、川越の歴史的建造物・町並みに多くの人が思いをよせ、川越の文化再興及びまちづくりを考える契機となったのではないかと考えます。</p> <p>また、東日本大震災があり、人々の絆の大切さが再確認されているこの時期に、この映画とトークショーにおいて、あらためてその点を強く感じることができました。三國連太郎さんは、体調不良のため参加できなかったが、メッセージを寄せていただいた。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>今回のような36mmフィルムだけが存在する映画の上映は、専用の映写機器が存在する映画館でないと上映ができず、また、フィルムの貸し出しのために特別の手配も必要で、さらに映画の貸借料、会場費・上映費などで高額の費用がかかることから、同一の事業を自主財源のみで再度実施することは困難であると考えます。</p> <p>川越織物市場に関係し、川越のまちづくりや文化再興につながる他の事業については、引き続き川越市と協働して実施していきたい。課題としては、市民活動団体の担い手の高齢化もあり、また、その活動の拠点となる、川越織物市場の整備の遅れがある。</p> <p>川越織物市場が復元整備されれば、それを拠点として、市民活動団体の再活性化をはかり、川越のまちづくり、文化再興につながる活動を継続して実施していけるものと考えており、その点で、織物市場の復元再生が重要な鍵となると思われる。</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	<p>上記の通り、高額の費用がかかるため、本件と同一の事業を再度実施することは困難である。川越織物市場に関係し、川越のまちづくり、文化再興につながる、他の事業については、引き続き、川越市と協働して実施していきたい。</p>

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成23年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	「山田地区伝統芸能まつり」と地域交流
団体名	NPO法人川越市北部地域ふれあいセンター運営協議会
市担当課名	市民部 市民活動支援課
事業の目的	山田地区に伝わる伝統芸能を後世に引き継いでいくため、地域の子どもたちへ伝統技術の伝承を図り、その成果を地域住民に周知することで郷土の文化を残していく。
事業の実施内容	<p>○子どもたちへの伝統芸能の伝承 平成23年10月から平成24年2月上旬まで（月2回程度）</p> <p>○「山田地区伝統芸能まつり」の実施 開催日時：平成24年2月26日（日）午前10時から午後2時まで 開催場所：川越市北部地域ふれあいセンター 参加人数：約300名（※参加団体含む）</p> <p>≪参加団体※出演団体順≫ ①石田囃子連（10:30～10:50、13:40～13:50）※納め囃子も実施 ②石田ささら獅子舞（10:55～11:25） ③府川囃子連（11:30～11:50） ④上寺山ささら獅子舞（11:55～12:35） ⑤北山田囃子保存会（12:40～13:00） ⑥福田ささら獅子舞（13:05～13:35）</p>
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 地域の伝統芸能団体との調整、練習会場貸出、地域住民への周知等
	川越市の役割 広報協力、事業周知等のアドバイス、協働に関する情報提供等
事業の成果	<p>山田地区に伝わる伝統芸能を地域のお祭りとして、お囃子や獅子舞の皆さんに演技を披露していただくことで、村祭りの雰囲気を感じることができたと思います。</p> <p>また、今回は練習に参加した地域の子どもたちも多く、多くの子どもに技術の伝承がなられ、後継者育成にもなったのではないかと考えています。</p> <p>協働事業として3年間実施し、「地域のお祭り」として地域に根付く伝統芸能まつりとなってきています。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>このような事業を実施する場合は、地域の各種団体の協力が必要な事業であり、地域の各団体との事前調整に多くの時間がかかってしまいます。経費面についても、自己資金のみでは事業規模に限られるとともに継続性に問題がありますので、地域の各団体と十分な調整を行い対応していきたいと考えています。</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	<p>「提案型協働事業補助金」が終了しても、地域のコミュニティ活動につながる事業であるため、NPO法人の自主事業として継続していきたい。</p>

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成23年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	劇団民藝 日色ともゑさんのおはなしと朗読
団体名	Peaceやまぶき
市担当課名	文化スポーツ部 文化振興課
事業の目的	「平和でなければ文化は育たない」と考え良質な文化事業を開催し、事業を通じて市民の方々に「平和」や「文化」への関心を抱いてもらう機会（キッカケ）を提供する。
事業の実施内容	<p>○5月中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「劇団民藝・日色ともゑさんのおはなしと朗読」のポスター、チラシ作成。 ・わらべうたを歌う子供たちを公募。（新聞等により公募）《応募者：24名》 <p>○6月19日（日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わらべうた練習・参加者顔合わせ《参加者：24名》 <p>○7月24日（日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレ企画、わらべうたと朗読、おはなし、音楽演奏の実施 ・場所：/小江戸蔵里ギャラリー《参加者 60名》 <p>○8月21日（日） 「劇団民藝・日色ともゑさんのおはなしと朗読」の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場所：やまぶき会館中ホール 参加者 412名（親子招待者：68名） ・午後1時30分から午後4時まで
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割： わらべうたを歌う子供たちの募集と練習・プレ企画の実施と講演会の運営全般。</p> <p>川越市の役割： 学校・公共施設等へのポスター掲示の協力。広報への掲載。事業運営における助言。</p>
事業の成果	<p>この「劇団民藝 日色ともゑさんのおはなしと朗読」事業については、子供たちが演じるわらべうたに合わせた日色ともゑさんによる川越の民話の朗読や自らの体験談によって、多くの参加者に平和の大切さを訴えかけられたのではないかと思います。</p> <p>また、公募で募集した子どもたちに、日色ともゑさんと同じ舞台上に立って共演してもらうという貴重な経験をしてもらう企画も実施し、前田千恵子先生の熱心な指導や日色ともゑさんのご協力により実現できました。</p> <p>日色さんの講演は、民話の朗読は、子どもころの体験談やまさに”Peaceやまぶき” 行う事業目的にぴったり合ったものであり、参加者からも「東京大空襲の話のときには、わが身と重なった。やっぱり平和が大事。」「朗読が素晴らしかった。」「良い時間を持てた。」などの声が多数寄せられ、平和や文化についての思いを深めていただくことができたものと認識しています。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策、	川越に“平和の理念と文化を育む”という考え方で、年間を通して継続性のある事業を考えていきたいと思っています。活動に参加していただく工夫を課題として捉えており、今回も川越で様々な活動をしている方にプレ企画に協力していただいたり、女性団体ネットワークの方々にチケット購入していただいたりとお繋がりや協力をいただきました。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	・Peaceやまぶきとして、目的に賛同してくれる後継者を育てながら、今後9年間は事業を継続していきたいと申し合わせています。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成23年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	成年後見制度の普及促進事業
団体名	NPO法人成年後見川越サポートセンター
市担当課名	福祉部 高齢者いきがい課
事業の目的	「成年後見制度の普及促進事業」は、川越市において、市民の方に介護保険と同様に老後の生活を支える成年後見の重要性を知って頂く為に、成年後見制度を講座や相談会等を通して身近に分り易く広報する事業である。
事業の実施内容	年に2回の成年後見講座の開催。年に5回の成年後見・介護保険・障害年金の相談会の開催。川越産業博覧会への出展。 ○講座【2回実施】 9月29日（水）午後、クラッセ6階、受講者24名。2月25日（土）午後、やまぶき会館、受講者17名。アンケート結果は、別紙。 ○相談会【5回実施】 会場は川越西文化会館。7月27日（水）午後、9月14日（水）午後、11月23日（祝・水）午後、1月25日（水）午後、3月14日（水）午後。 ○川越産業博覧会出展 10月29日・30日（土・日）終日、相談会と広報活動を実施。
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 事業の周知、高齢者サポートのネットワーク構築 川越市の役割 広報、市の関係課への連絡調整等
事業の成果	川越市の広報誌にその都度、講座と相談会開催を掲載させて頂き、一定の集客に繋がってきている。 講座の内容は、成年後見制度の説明DVDの後、成年後見制度の概要説明、事例紹介、相談会と続く。DVDがあり、理解の助けになっている。 毎回活発な質問が続き、興味のある方には直接その場で疑問点が解決できるようになった。別紙アンケート参照。相談会も、毎回申込みがあり、1組の相談者に2名1組で対応した。多い時は9組の申込みがあった。川越市産業博覧会では、初めての出展であったが、川越市協働事業ということで、良い場所にブースを設営することができ、来場の多くの市民にチラシなどで広報することができた。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	成年後見制度の利用者は大半が高齢者であり、高齢者を中心に広報してゆくことになる。講座の受講者は、介護施設職員が何割かを占めるが、一般市民の方にもっとこの成年後見制度を周知してゆく必要がある。産博や他の催しなどの情報を提供して頂き、更に色々な場所で広報活動をしてゆきたい。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	年に2～3回の成年後見講座の開催。年に6回の成年後見・介護保険・障害年金の相談会の開催。市民が集まる場所での広報活動の実施。継続して、続けてゆく。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成23年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	「石川文洋」講演と音楽のつどい事業
団体名	「九条の会」川越連絡会「石川文洋」講演と音楽のつどい実行委員会
市担当課名	文化スポーツ部 文化振興課
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「石川文洋」さんの講演と写真展、そして「清水正美」さんのコンサートを通して、豊かな心を育てるとともに教養を高め、市民の文化の振興に役立てることを目的とする。 ・また、戦争と平和について考えることによって、市民の平和への理解を深め、平和を守り大切にすることを高めることも目的とする。
事業の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・2011年9月17日(土)に、西文化会館ホールにおいて報道写真家「石川文洋」さんの講演と、新宿ともしび歌手「清水正美」さんのコンサートを行い、約300名の方が参加する。 ・2011年9月15日(木)～18日(日)の4日間に、西文化会館ロビーにおいて「石川文洋」さんの写真展を開催し、約500名の方が見学する。
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスター200枚、チラシ約1万枚等により市民および会場周辺地域住民への事業の周知を行うとともに、市内各団体・各大学等への参加・協力依頼等を行う。 ・事業の準備・運営及び市内の関連団体等との連携役を務める。 <p>川越市の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や公共施設等へのポスターの掲示への協力、広報川越への掲載等の事業の広報活動。 ・事業に関係する情報の提供及び市の関係部署への連絡調整、事業運営における助言等の活動。
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・講演と音楽のつどいには、300名を超える方が参加され、石川さんの話や清水さんの歌を聴いてもらうことができた。 ・スライドを見ながら話された石川さんの「私が見た戦争と平和」の講演では、石川さんがベトナムやアフガニスタン等で見た戦争の真実を知ってもらうことができ、戦争では何も解決しないどころか、全てが破壊され、多くの市民、特に子ども達が犠牲になる、それは大人の責任であり、だから戦争は決して行ってはいけないという戦争に対する石川さんの考え方に接してもらうことができ、平和への理解を深め、平和と文化を守り大切にすることを高めることができた。 ・清水さんのコンサートでは、アメイジンググレイスやあの日への授業などの素晴らしい歌を聴いてもらい、歌の持つ力に触れてもらうことができ、豊かな心を育てるとともに、平和と文化を守り大切にすることを高めることができた。 ・また、石川さんの写真展には、約500名の方が見学に訪れ、戦争の真実を写した写真を見てもらい、戦争と平和や報道写真のあり方等について考えてもらうことができ、平和や報道写真への理解を深め、平和と文化を守り大切にすることを高めることができた。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・「九条の会」かわごえ連絡会では、今後も、市内の各「九条の会」が協力し合って、平和への理解を深め、平和と文化を守り大切にすることを高める活動を継続していきたいと考えています。特に、これからは、若い方達や子ども達にどう広げていくかが課題であると考えています。 ・そこで、今後も、さらに参加する「九条の会」を増やし、つながりを広げていきたいと考えています。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、「九条の会」かわごえ連絡会として、市内の各「九条の会」が協力し合って、事業を継続して行っていく予定です。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。